最終出願者数発表！！

公立高等学校入学者選抜学力検査最終出願者数　2022.2.24

高等学校名	学科名	募集定員	検査定員	出願者数	R３倍率	R４倍率
鶴　丸	普　通	320	298	**431**	1.28	**1.45**
甲　南	普　通	320	289	**289**	1.66	**1.33**
鹿児島中央	普　通	320	290	**290**	1.58	**1.44**
鹿児島玉龍	普　通	125	113	**154**	1.22	**1.36**
錦江湾	普　通	180	156	**138**	0.85	**0.88**
	理　数	80	74	**43**	0.45	**0.58**
鹿児島工業	工業Ⅰ類	240	207	**275**	1.27	**1.33**
	工業Ⅱ類	120	92	**126**	1.26	**1.37**
鹿屋農業	農　業	40	37	**12**	0.41	**0.32**
	園　芸	40	39	**16**	0.21	**0.41**
	畜　産	40	33	**28**	0.86	**0.85**
	農業機械	40	36	**39**	0.95	**1.08**
	農林環境	40	37	**29**	0.59	**0.81**
	食と生活	40	40	**41**	1.13	**1.03**
霧　島	機　械	40	40	**12**	0.35	**0.30**
	総合学	40	40	**22**	0.65	**0.55**

高等学校名	学科名	募集定員	検査定員	出願者数	R３倍率	R４倍率
蒲　生	普　通	80	80	**32**	0.46	**0.40**
	情報処理	40	40	**21**	1.13	**0.53**
加治木	普　通	320	302	**335**	1.12	**1.11**
加治木工業	機　械	80	77	**74**	1.03	**0.96**
	電　気	40	38	**21**	0.64	**0.55**
	電　子	40	38	**33**	1.63	**0.87**
	工業化学	40	40	**23**	0.67	**0.58**
	建　築	40	39	**38**	1.28	**0.97**
	土　木	40	36	**35**	0.90	**0.97**
国分中央	園芸工学	40	40	**49**	1.03	**1.23**
	生活文化	80	73	**75**	1.05	**1.03**
	ビジネス情報	120	110	**82**	1.00	**0.75**
	スポーツ健康	40	19	**20**	1.22	**1.05**
国　分	普　通	280	268	**209**	0.75	**0.78**
	理　数	40	39	**44**	1.30	**1.13**

https://www.mbc.co.jp/bairitsu/

先週2月24日（木），公立高等学校の最終の出願倍率が発表されました。先日学級PTAでもお話ししたとおり,今回発表された出願倍率は，あくまでも一つの指標でしかありません。この出願倍率だけにとらわれて安心して気を抜いたり，あきらめて落ち込んだりするのではなく，自分の目標やこれまでの努力などさまざまな視点から，自分の進路を実現するために，今取り組むべきことに全力で打ち込むことが大切です。倍率が１倍に満たないからといって，受検者が全員合格するとは限りません。過去にもこういう場合で合格できなかった例も少なくありません。決して勘違いして，努力を怠ることのないように！！この倍率発表を受けて，受検生のみなさんが行うべきことは，

「覚悟を決めて最後まで努力する！」ことではないでしょうか。

いまこそ溝辺中学校3年1組全員の力を結束して公立受験に向かっていこう！

迷わないことが強さじゃなくて
怖がらないことが強さじゃなくて
泣かないことが強さじゃなくて
本当の強さって
どんなことがあっても
前をむけることでしょ。前をね。

ムーミン／ミイ

受験の日

俺のかーちゃん、俺が高３に上がったときに いきなり倒れて入院した。検査をして入院が決まったが俺は内容を詳しくきかされなかった。 夏頃から受験勉強もあって かーちゃんに会いにいく時間も取れなくなっていった。

俺は決して頭が良くはなかった。かーちゃんは立教大学出身俺は小さい頃良く「かーちゃんと同じ大学にいく」と言ったものだ。実際に受験となると、ハードルは高かったけれど、立教を目指してがんばった。冬になり、かーちゃんは次第に痩せていった。飯も食わなくなり、俺の手を良く握るようになった。かーちゃんは俺に色々話をさせた。学校 進路 夢・・・思えば何であのとき気がつかなかったんだろう…

最後の模試の結果が出た。努力の甲斐か、立教大B判定が出た。俺からすれば奇跡に近い判定。おれは帰りに病院に行き結果を見せた。
俺：「かーちゃん、おれ立教大いくよ。判定もホラ」と得意げに模試を見せた。
かーちゃん：「がんばってるのね。ﾀｹｼ(仮)が後輩になってくれたらかーちゃん嬉しいよ」
その日もかーちゃんは俺にたくさん話をさせた。俺の手を握りながら…楽しそうに

入試を控え2月に入った頭にかーちゃんに自宅療養許可が下りた。俺は大喜びで迎えに行った。病院に着くと担当医の診察室に通された。注意や説明かと思っていた俺は耳を疑った。母は癌だという、最初は早期発見で準抗癌剤投与で治るはずだったそうだ。そっからは頭が真っ白で良く覚えてない。聞き取れたのは本人に告知してないこともはや手遅れだと言うこと聞きたくもない現実だけが頭に残った…。かーちゃんの病室へ行くと家に帰れるのが嬉しいのかもう準備をして待っていた。俺はかーちゃんの顔をまともに見れなかった 。

それからすぐ、俺は大学入試を迎えた。大本命の日、朝早く起きて下に降りるとかーちゃんが台所にいた。
俺:「何やってんだよかーちゃん、寝てなきゃ」
母:「今日は本命の日でしょ、お弁当持ってきなさい」
一年ぶりのかーちゃんの弁当だった。俺は涙が出るのをこらえながら準備をして出かけようとしたときかーちゃんが急に苦しみだした。俺は急いで病院に電話し、救急車がきた。家には俺しかおらず、付き添って行った。意識が飛びそうになるくらい混乱しながら苦しむかーちゃんの手を握った。病院についてすぐ親父も駆けつけた。しばらくして担当医に呼ばれた。
担当医：「最期になるかもしれないのでついてあげて下さい。」
俺と親父が病室に入ったときかーちゃんは無惨なほどだった。血の気は引き、やせ細り…しばらくして意識が戻った。かーちゃんはいつもみたく手を握った

病人とは思えないくらい強く 俺は子供みたいに泣いていた…。かーちゃんは声にならない声で何かを呟いていた。俺は耳を近づけて聞き取ろうとすると確かにこう言っていた
母：「うけてきなさい」
そしてかーちゃんは俺から手を離した。

そんなの無理に決まっている。かーちゃんを置いて受験に行くなんて･･･しかももう8時を回っている。間に合うとしてもｷﾞﾘｷﾞﾘだった。困惑した俺に親父が声をかけた。
父：「行ってきなさい、母さんもそうしなさいと言ってくれてるんだ」
俺はかーちゃんの手をもう一度握ると弾けたように病室を飛び出していた。そこからどうやって来たかはおぼえていない。走って、走って、走って…乗り換えて、乗り換えて…池袋駅を疾駆して何とか一限の筆記試験を受けたとき、やっと正常な時間の流れに戻った気がする。

昼休み、何も食べる気がしなかったがかーちゃんの弁当を思い出した。俺は中庭でそれを広げた時、何とも言えない懐かしさと何かこみ上げるものを感じた。それは俺が中高６年間食べたかーちゃんの弁当だった。
おいしい…涙をこらえ食べた
かーちゃん…
それからは流れるように時間がたち手応えも何も感じないままフラフラと家まで帰った…